

NPO 法人

小金井経済大学

第 25 号 平成 30 年 2 月

だより

新春雑感 ― 年賀状と生涯学習 ―

小金井雑学大学・学長 長坂 寛

私は今年の年賀状に「近年ほど国際情勢をはじめ AI を中心とした技術進歩の大きなうねりを感じることはありません」と印刷書きし、さらに「今春、30 余年務めた大学を辞めることにしました。これをもって「社会人 60 年マラソン」を完走したことにします」とペンで添え書きをしました。その他、例年通り近況報告を兼ねた一年間の総括と「一年の計は元旦にあり」の諺に従い構想段階のものでも記して約 300 枚の年賀状を投函しました。



その過程で感じたことは「喪中につき欠礼する」旨の多数の葉書を目の当たりにして、今さらながら高齢化時代の到来を実感したり、メール、スマホ等の普及にともなう年賀状の行く末のことでした。しかしながら、年賀状の交換によって、知らぬ間に生涯学習に必要とされる要件が満たされているメリットにも気づくこともできました。その一部を示す次の通りです。

- (1) 将来の見通しをする。
- (2) 目標を設定する。(一年の計は元旦にあり)
- (3) 社会(交友)関係を密にする。(年賀状の枚数がバロメーター)
- (4) 文章作成の習慣をつける。

私の場合、将来の見通しの AI については新年早々の新聞紙上(日本経済)では下記の大きな見

出しで連日のように報じており、門外漢ながらその詳細を読む限り今年最初のヒットだといえそうです。

「AI 産業革命始動」(1・11)
「AI で防犯 映像解析」(1・12(タ))
「AI 集団、巨人をとりこ」(1・15)
「AI 搭載車 すぐそこ」(1・16(タ))

次の目標については、本学設立 20 周年記念事業の懸賞論文課題の「人生 100 年時代の生涯学習」と個人的には「社会人 60 年マラソンの完走」に凝縮させている型です。人生 100 年に関してはすでに五木寛之氏の「百歳人生を生きるヒント」(日経プレミアシリーズ)をはじめ多数の情報があるので参考にして頂きたいと思います。

それにつけても AI (人工頭脳) という異次元の世界での人間の生き方が分らない現在、果たして「AI 時代の生涯学習」が成立するの否か戊戌年の年男が自問自答している昨今です。

高齢社会白書（平成29年版）が提議する課題

さくら体操指導者 竹本 靖雄

標題白書は昨年取上げた「2025年問題」に関連し注目致して居りました。特に新たな展開を見せる項目について説明を加え、高齢化社会の現状を皆さんに正しく理解して頂き、何が将来の課題に成るのか真剣に考えて頂きたいと思っています。

1. 高齢化の現状と其の見通しに就いて

「表1」の通り総人口が減少する中で高齢化率は上昇し、予測では2042年に3935万人（対2016年比113・8%）でピークを迎える。高齢者人口数2010年基準100とし2016年118・3、2025年125・8、2030年127・0となり負担が増加することを意味する。更に将来的展望では年少者の減少が其の傾向を増進させる。

2. 平均寿命に就いて

2015年は男性80・75年、女性86・99年で年々増加して居り、2065年には男性84・95年、女性91・35年を超えるとして居る。

3. 高齢者の家族と世帯に就いて

2015年の65才以上の高齢者が居る世帯数は2372万4千世帯と全世帯数5036万1千世帯の47・1%を占める。遡り1980年（昭和55年）には3世代世帯が50・1%であったが2015年には夫婦のみの世帯が31・5%、単独世帯26・3%を併せると57・8%に達して居る。「表2」

4. 社会保障費に就いて

社会保障費は1960年代までは失業対策や生活保護が中心だったが、次第に社会保険や老人福祉を中心とする社会福祉、介護等に重点が移り増大して居る。

表 1. 高齢化の現状と其の見通しに就いて

単位：万人（人口）、 %（構成比）

年次	総人口	高齢者人口			年少人口	生産年齢人口
		65～74才	75才以上	合計65才以上	0～14才	15～64才
2016年	12,693 (100)	1,768 (13.9)	1,691 (13.3)	3,459 (27.3)	1,578 (12.4)	7,656 (60.3)
2025年予想	12,254 (100)	1,497 (12.2)	2,180 (17.8)	3,677 (30.0)	1,407 (11.5)	7,170 (58.5)
2030年予想	11,913 (100)	1,425 (12.0)	2,288 (19.2)	3,713 (31.2)	1,321 (11.1)	6,875 (57.7)
2010年実績	12,806 (100)	1,517 (11.9)	1,407 (11.1)	2,924 (23.0)	1,680 (13.1)	8,103 (63.2)

表 2. 65才以上の人がある世帯数及び構成割合

厚生省「国民生活基礎調査」 単位：千世帯 （構成比%）

	単独世帯	夫婦のみ	親と未婚の子	3世代世帯	其の他	合計
1980年	910 (10.0)	1,379 (16.2)	891 (10.5)	4,254 (50.1)	1,062 (12.5)	8,496 (100)
2015年	6,243 (26.3)	7,469 (31.5)	4,704 (19.8)	2,906 (12.2)	2,402 (10.1)	23,724 (100)

4-1. 財政上の歳出総額の内訳

平成29年度予算 単位：億円 （構成比%）

歳出総額	社会保障費	公共事業費	文教科学費	防衛関係費	地方交付税	其の他	国債費
974,547 (100)	324,735 (33.3)	59,763 (6.1)	53,567 (5.5)	51,251 (5.3)	155,671 (16.0)	94,274 (9.6)	235,285 (24.1)

4-2. 社会保障給付額の推移

単位：兆円

(構成比%)

【伸長率%、2010年基準】

年次	総額	医療関連	年金関連	福祉・他項目
2015年(平成27)	114.85 (100) [109.0]	37.71 (32.8) [113.6]	54.94 (47.8) [103.7]	22.20 (19.3) [115.6]
2010年(平成22)	105.36 (100) [100.0]	33.17 (31.5) [100.0]	52.98 (50.3) [100.0]	19.20 (18.2) [100.0]

4-3. 社会保障財源に就いて

2015年の国庫負担は33兆4,423億円、地方自治体13兆6,956億円、計46兆1,379億円

台所から始まる身の回りの物

東京学芸大学名誉教授 大井みさほ



第449回講義 9月17日

「台所と物理」という題で講義をしたのは昨年の9月であつた。そこでは、いろいろな力が関係する力学を先ず取り上げ、次に熱や圧力などの熱力学の分野と電磁気学の分野に入り、電子レンジや冷蔵庫などを話した。その後の経験から、台所からもっと範囲を広げて家庭内外に関係する身の回りの物理を取り上げてみたくなった。

そう考えるようになった理由

の一つは私が関係した八王子市立中学校全44校を対象とする夏休み自由研究のコンクールである。研究テーマの多くは、家庭での身近な経験に基づくものが多い。それらを分類すると圧倒的に物理が多く、次が生物である。世間では物理と言うと苦手と言う反応が多いのに、生徒たちはどうして物理的なテーマを取り上げるのかを考えると、私たちの生活の身の回りには実に物理的な事象が多いのである。生徒たちの研究テーマを見ると、最優秀賞が「うちの研究」、優秀賞が「気圧計の開発」と、二つとも物理である。奨励賞10点のうち物理は表面張力、慣性、摩擦、ピタゴラススイッチと4作品もある。

さて身の回りを見ることに入ろう。高齢になってくると家の中に潜む危険が気になってくる。力学的な危険をまず考えると、転ぶことである。私たちが立っていられるのは体の重心の位置が身体の中にあるからで、これが転びかけているときは身体の外にずれかけた時だ。力は質量×加速度で表されるから、横向きの加速度が大きいと身体はすぐく速く横にずれ重心が体の外に出てしまい、倒れてしまう。転ばないようにするにはこの横向きの力が小さいことが大切だ。小さいということとは加速度が小さいということであるから、体の動きに關係する速さをゆっくりにするれば、速さの変化の程度を示す加速度も小さくなる。なにごともしなやかとするのではなく、ゆっくり動けば転倒事故も減るのだと、そそかしい自分自身に言い聞かせている。

2018 我が家の初日の出

松蔭大学教授 中村 龍一



第 453 回講義 11 月 19 日

この原稿は平成最後の初春に書いています。私は、元旦の午前 8 時頃、お隣の庭の端にあるプレハブの物置から顔を出したご来光を拝みました。プレハブ山からのご来光はまぶしく輝き、富士山頂に負けない初日の出でした。

ところで、「日の出、日の入り」は現代科学では間違いですね。天動説だから。「宇宙から見れば動かないのは太陽で、地球は

その回りをめぐっている」と小学校の理科で教えてもらいました。でも、私には間違いなく初日の出はプレハブ山から昇ってきます。思わず手を合わせるのです。

近代の神ともいえる科学が排除した日常生活の「真実」を考えることに、私は興味があります。昨年、お話しさせて頂いた柳田国男『遠野物語』もそのひとつです。科学の「事実」はある条件の中で成立する法則です。私たちの暮らしはもつと複雑です。とくに、「人の心」は、深い底なしの深層の井戸のようなものです。だって、ここにいる私を起源（先祖）へと遡っていくと、類人猿、猿などの哺乳豪物、魚類、苔などの植物……につながっています。そのものが全部つながって「今、こ

こ」の私なのです。こう考えると本当に命は不思議です。

今年は戌年、私も戌年の年男です。我が家には丑年生まれの子ワワの「ポチ」がいます。私はこの「ポチ」と未知の交信をすることが愉しみです。「ポチ」は何を考えているのか、私には未来永劫わかりません。でも、「交信できた」と、思えるときがあるので。私の思い込みかもしれないね。我が家の「ポチ」は怪しい人に吠えます。しつこくされるのを牙をむきます。私はその野生が好きです。そこで年賀状のご挨拶の句はこうなりました。

初空に

いまを駆け抜く

ポチの残映 龍

明けましておめでとうござい
ます。小金井雑学大学のご発展
をお祈り申し上げます。

20 周年記念講演のお知らせ

「大伴家持の『旅』」

藤井 一二氏(松蔭大学特任教授)

3 月 18 日(日) 14 時～15 時 30 分

- 会場:萌え木ホール(商工会館 3 階)
- 講演終了後懸賞論文受賞者表彰
- その後祝賀会開催(参加費 3,000 円)

